

教科	科目	単位数	学年	集団
国語	文学国語	2	2	ビジネス探究科

使用教科書	副教材等
文学国語（大修館書店）	トータルサポート新国語便覧（大修館書店）

科目の目標
<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技術を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2)深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
①知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技術を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。
②思考・判断・表現	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。
③主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評価方法	
①定期テスト、小テスト ②定期テスト、ワークシート ③授業、テストへの取り組み状況、提出物	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材などの内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	自然や身近な出来事を描いた文章に触れ、文学に親しむ。	『飛ぶことを知っている魂』 梨木香歩 『十八歳の選択』 浅井リョウ	①文学的な文章を読むことをとおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 ②「書くこと」において、文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して表現したいことを明確にしている。 ③自らの体験をとおして感じたことを、読み手に伝えることをふまえて書こうとしている。	○	○	○
5	語り手の役割を意識して読む。	『旅する本』 石田衣良	①文学的な文章を読むことをとおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 ②「読むこと」において、作品の内容や解釈をふまえて、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 ③筆者のものの見方や考え方をとらえ、想像することや、共感することをおして、自分の生き方について考えを深めようとしている。	○	○	○
6	登場人物の心情や境遇を理解する。	『山月記』 中島敦	①人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊にする読書の意義について理解を深めている。 ②「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係をふまえて、作品の解釈を深めている。 ③文章の特徴や語りの構造に興味を持ち、登場人物の心情や境遇をふまえて、作品を読み味わおうとしている。	○	○	○
7	韻文の表現や効果について理解を深める。	短歌 『共感と驚異』 徳村弘	①情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増やし、文章の中で使うことをとおして、語幹を磨き、語彙を豊かにしている。 ②「書くこと」において、文体の特徴や修辭の働きなどを考慮して、読み手を引きつける独創的な表現になるよう工夫している。 ③心情を伝えるための表現の工夫をおさえ、読み手を意識して書こうとしている。	○	○	○

9	自然と人間との関係がどのように表されているかをとらえる。	『鹿を追いかけて』小池昌代	①言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ②「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係をふまえ、作品の解釈を深めている。 ③文中で描かれる自然と人間の関係に興味を持ち、情景描写をはじめとした表現を読み味わうことができる。	○	○	○
10	人物関係や人物の境遇と心情をおさえる。	『ころろ』夏目漱石	①情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増やし、文章の中で使うこととおして、語幹を磨き、語彙を豊かにしている。 ②「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係をふまえ、作品の解釈を深めている。 ③登場人物の境遇や、それぞれの人間関係をおさえ、作品の魅力を味わおうとしている。	○	○	○
11	人物関係や人物の境遇と心情をおさえる。	『ころろ』夏目漱石	①情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増やし、文章の中で使うこととおして、語幹を磨き、語彙を豊かにしている。 ②「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係をふまえ、作品の解釈を深めている。 ③登場人物の境遇や、それぞれの人間関係をおさえ、作品の魅力を味わおうとしている。	○	○	○
12	詩の形式やリズムを味わう。	詩 『君の呼びかけに』ラビンドラナート・タゴール 『永訣の朝』宮沢賢治	①言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ②「読むこと」において、作品の内容や解釈をふまえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 ③韻文の表現や効果について理解を深め、作品の魅力を読み味わおうとしている。	○	○	○
1	人物描写や表現効果に着目しながら話のテーマを考える。	『美神』三島由紀夫	①言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ②「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容の構成、展開、描写のしかたなどを的確にとらえている。 ③舞台設定や時代背景をおさえ、作品のテーマについて考えを深めようとしている。	○	○	○
2	幅広い視点で日本の言語文化の特徴をとらえる。	『月の誤訳』多和田葉子	①言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ②「読むこと」において、作品の内容や解釈をふまえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 ③作品のものの見方とおして、日本の言語文化の特徴について考えを深めようとしている。	○	○	○
3	幅広い視点で日本の言語文化の特徴をとらえる。	『私の日本住居論』ドナルド・キーン	①言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ②「読むこと」において、作品の内容や解釈をふまえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 ③作品のものの見方とおして、日本の言語文化の特徴について考えを深めようとしている。	○	○	○